

令和元(2019)年度 免許状更新講習【選択】シラバス

講習名	こどもの自立	
時間数	18時間	
受講対象者	幼稚園教諭	
担当講師	小林みどり、澤田真弓、立本千寿子、高野敦子、徳永満理、 満田知美、斎藤正寿、式部陽子、高橋司	
講習の概要	講習Ⅰ	<p style="text-align: center;">子どもの学びを支える保育者の役割〔担当：小林みどり〕</p> <p>『幼稚園教育要領』が改訂され、子どもに育つことを明確にして評価を行うことや、小学校との接続がより求められるようになりました。これからの保育に求められることを整理しながら、保育者の役割について考えます。</p> <p style="text-align: center;">長時間保育と子育て支援〔担当：澤田真弓〕</p> <p>現在、幼稚園においてもニーズが高まっている長時間保育と子育て支援活動に関して、それぞれのカリキュラムと課題について事例を通じた考察を行います。また、子どもを取り巻く社会的背景、生活背景の変化に着目し、今後の望ましい活動設定について考えたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">子どもと音楽表現〔担当：立本千寿子〕</p> <p>乳幼児にとっての音環境は、何気ない生活の中で様々な刺激を乳幼児に与えています。とりわけ、保育現場では、乳幼児の園生活のリズムを刻み、健全な心身の発達を促す役割を担っています。本講義では、前半を乳幼児の発達と音楽の関わりについての講義や、現場ですぐ活用出来る題材を用いた手遊び・幼児の歌・リズム表現の演習を行います。そして後半では、前半で習得した題材を活用して、総合的表現の視座に立った幼児の音楽表現をグループで創作し、最後に発表を行います。</p>

講習の概要	講習Ⅱ	<p>遊びにおける幼児の論理的思考力の発達について〔担当：高野敦子〕</p> <p>「幼稚園教育要領」の改訂のポイントの1つは、知識や技能を活用するための資質・能力としての「思考力」の重視です。その背景となる社会の変化を解説し、遊びを通した幼児の論理的思考力の発達について考えます。さらに、情報化時代を生きる子供たちの考える力を伸ばす新しい体験について紹介します。</p>
		<p>こどもの言葉の育ちにおける絵本の役割〔担当：徳永満理〕</p> <p>絵本は、幼稚園教育要領の5領域「言葉」において“絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう”とし、こどもの言葉を育てる文化財の筆頭に位置付けています。こどもの発達に沿った読み聞かせをすることで、聞く、見る力を育て、想像力を育くむ絵本の魅力とその実践について考えます。</p>
		<p>こどもと造形表現〔担当：満田知美〕</p> <p>造形あそびの基礎と応用</p> <p>基礎／保育現場での造形遊び（お絵描き遊び）で生かせる基礎（描写、色彩、色彩構成）を学びます。材料や道具に十分に馴れることで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ、それを絵や工作に表していきます。</p> <p>【課題（オイルクレパスアート技法）】</p> <p>応用／素材の研究を中心にどのように子ども達が制作を展開していくかを学びます。</p> <p>【課題（くるりんカール技法で半立体作品の制作）】</p>
講習の概要	講習Ⅲ	<p>国際社会における子どもたち〔担当：斎藤正寿〕</p> <p>現在世界には22億の子どもたち（18歳未満）がいますが、そのうち880万人が5歳までに亡くなり、1億人が初等教育を受けられず、1億5000万人が児童労働に従事し、7000万人の女子が性器切除を経験し、120万人が人身売買されていると言われています。この時間は、国連で1989年に採択された「子どもの権利条約」に着目しつつ、少しでも21世紀の日本の外側で暮らしている子どもたちに思いを馳せていただこうと思います。</p>
		<p>発達障がいのある子どもと家族への支援〔担当：式部陽子〕</p> <p>教育の現場において共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育、合理的配慮の提供が求められています。本講習では、自閉スペクトラム症（ASD）、ADHD、LD等の発達障がいのある子どもと家族への支援について、子どもたちの特性理解、具体的な支援のあり方、家族への支援について考えます。</p>
		<p>児童文化財としてのパネルシアター〔担当：高橋司〕</p> <p>パネルシアターが創案されて45年になります。今では各方面で利用されています。保育の中では行事の中で活用されることが多いようです。そこでパネルシアターは魅力的な児童文化財であるはことを踏まえ、パネルの日常化、保育化を目指し、保育の中での活用の方途を実演を踏まえて考えていこうと思います。</p>

<p>評価方法</p>	<p>3日間3講習（10項目）の筆記・実技試験の成績により評価します。各講習の合計点が100点満点となる成績評価を行い、60点以上を合格とし、履修認定を行います。</p>	
<p>成績評価の観点</p>	<p>講習Ⅰ</p>	<p>子どもの学びを支える保育者の役割</p> <p>講義内容をもとに、受講者自身の実践を振り返ること、さらに、受講後の実践に向けての課題が見出されていることを観点に評価を行う。</p>
		<p>長時間保育と子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間保育、子育て支援活動に関して十分な現状認識と課題の抽出ができたか。 ・子どもを取り巻く諸状況の変化を意識的に捉える視点を持てたか。 ・今後の活動設定に関して、実情に応じた立案の視点を持てたか。
		<p>子どもと音楽表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組み、表現することを肯定的に捉えながら、音楽を楽しく表現できたか。 ・手遊びや幼児の歌のレパートリーを増やし、様々なリズムを習得することが出来たか。 ・協調性を持って他の受講生と共にグループワークを行い、総合的表現の視座に立った音楽表現を創造・表現することが出来たか。
	<p>講習Ⅱ</p>	<p>遊びにおける幼児の論理的思考力の発達について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの思考力が求められる社会背景が理解できたか。 ・遊びにおける幼児の思考力の発達を捉えることができるようになったか。 ・幼児のデジタル体験に対して、思考力の発達という視座を持てたか。
<p>子どもと造形表現</p> <p>授業に対しての意欲。自身の造形表現のために工夫と熱意を持って実践できたか。</p>		
<p>成績評価の観点</p>	<p>講習Ⅲ</p>	<p>国際社会における子どもたち</p> <p>21世紀の日本と世界の子どもたちの状況を比較することで、その違いと共通点の両方を明確に理解することができたか。そうした比較が、日常接する子どもたちへの「眼差し」の変化をもたらすとすれば、それはどのようなことかを意識化できたかどうか。</p>
		<p>発達障がいのある子どもと家族への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいについて、基本的な特性を理解できているか。 ・特性に応じた支援のあり方を理解できているか。 ・発達障がいのある子どもの家族への支援について理解できているか。 ・インクルーシブ教育、合理的配慮の視点に基づいた支援のあり方が理解できているか。
<p>使用する教材等</p>	<p>全講習</p>	<p>必要に応じて資料を配付する。</p>